

士業事務所の新たな遭遇。“未知”との「距離感」を測れ！

# FIVE STAR MAGAZINE

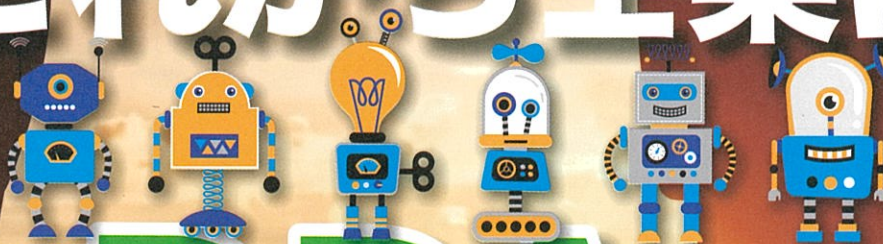
士業専門誌

2019.07 51

年間購読/年間6冊・30,000円(税別・送料込)  
発行/LIFE & MAGAZINE 株式会社  
◎本誌は以下の事務所にお届けしています  
税理士、司法書士、弁理士、行政書士、社会保険労務士  
など(購読者の多い順)

- 100個のロボットが100通りの作業を行う事務所
- わずか時給62円の「ロボット社員」の活躍
- RPAで相続業務をオートメーション化
- 問い合わせ前にロボットが「診断」、受任率がアップ!
- AI活用に必要な法務スキル以外の「技術」とは何か?
- リーガルテックの「提供」で、ブルーオーシャンへ など

これから士業は、



# RPAと テクテクテクテク

Robotic Process Automation & X-Technology との遭遇

士業事務所のための経営専門誌

The Magazine for Professional Firms

## 月480時間分の作業を代替。 時給62円の「労働力」

弊事務所では新設法人を中心に集客をし、多くの顧問を増やしています。そのため、弊事務所が最初に着手した「ロボ化」は、新規のお客様情報の登録作業でした。

会計事務所の業務では、顧客の基本情報をいくつものシステムに何度も入力する機会が多くなります。同じ方の氏名や住所を何度も入力する作業があり、非効率的な作業になっています。ですからまず、そうしたムダな作業をロボ化しようと考えました。

初めに、お客様のマスター情報を入力したExcelを作成します。この部分は、現状は人間による手入力を行っています。お客様からいただいたデータや資料を外部パートスタッフに送り、Excelに入力してもらっています。そして入力された情報をロボットが、会計ソフトを始めとする各種のシステムに登録していきます。

新設法人では会社設立時に10以上の行政手続きが必要になりま

すが、それらの準備・申請もロボットが行っています。税務申告では、申告書のレビューは税理士が行いますが、その後にRPAを実行することでロボットが電子申告を行う流れになっています。

ほかには、年に1~2度あるスタッフの昇給時に、賃金規定に基づいてスタッフ一人一人の昇給金額をロボットに計算させています。これまで昇給額の計算はExcelのマクロ機能を使って行っていました。現在はマクロよりもRPAの方が早く設定ができます。マクロの知識のある人においてもRPAの方が簡単に扱えると思います。

RPA導入には、さまざまなメリットがあります。例えば、ロボットが行う作業のスピードが速いこと。それは一つには物理的に稼働しているPCの台数（つまり労働力）が増えていることが挙げられます。さらに人間が作業する際には、判断に迷ったり、間違えて作業をやり直したりすることがありますが、ロボットなら想定する最速のスピードで作業を行うことが

できます。

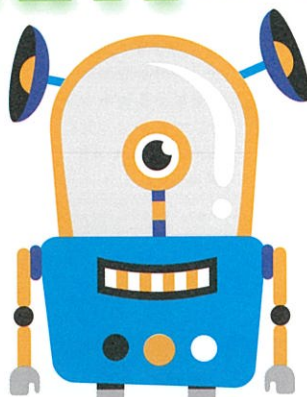
弊事務所ではRPAツールとして『EzRobot（株式会社RPAソリューションズ）』を利用していますが、おおよそ顧客1社あたり40時間の作業の内、2割をロボ化して、月に3件、20人分の作業をロボが対応することで、月間480時間を代替できています。スタッフの時給を2千円とするとロボットの月の人件費は96万円になります。それを月3万円のRPAで代替できるので、計算上の時給は62円になっています。

## これからは、 RPAは「一人に一台」

RPAに業務をさせるには、人間のスタッフと同様に、物理的にロボット1機につきPC1台が必要になります。ですから、弊事務所ではRPAを扱うことができるスタッフに対しては、自分用のPCとロボット用のPCの2台を用意しています。

両者は同じようにPC一台を使

## RPA 導入事例



# 特集



これから土業は、RPAと テクテクテク

「ロボットが業務を行うこと」をPRすることが、  
マーケティングや採用面での差別化と、  
離職を防ぐ効果があるって知っていますか？

~RPA活用をブランドアップにつなげる~

夜20時にPCモニター上のマウスカーソルが独りで動き出す。無人のPCは真夜中も動き続け、翌朝の8時までには仕事を終えその動きを止める。日中には、お客様と電話をするスタッフのそばで、無人のPCが電子申告などの作業を行っている——。こうした光景が今回取材したサン共同税理士法人の中では、日常の風景になりつつある。同事務所では、会計事務所におけるRPAを活用した最先端の取り組みが行われている。サン共同RPAコンサルティング株式会社では、RPAの代理店事業も開始した。それらの成果を同法人代表の朝倉歩氏の講演よりまとめた。(文・武田司)

用しますが、人間のスタッフが月に160時間働くのに対し、ロボットは理論上、時間に関係なく働き続けることができます。ですから今後は一事務所に1台導入するというのではなく、スタッフ一人に対し、RPA用のPCを1台用意する事務所が多くなっていくのではないかと思います。

また弊事務所ではサーバー環境を仮想化して作業していますので、ローカル環境でロボが作業することにより、PC1台で人間とロボットが同時に作業ができます。そうやってRPAを使ったロボ化を進め、生産性向上に取り組んでいます。

## 「業務をロボが行うこと」をブランディングに活用!?

どの業務をロボ化しようかと考える時には、そもそもそれが不要な作業ではないかと検討することから始まります。それからロボットが得意な分野のものでも、既存のソフトやシステムの機能ででき

る作業もあります。例えばロボットは預金の取引情報を取り込むことは得意ですが、それよりもクラウド会計ソフトで行った方がよいと思います。ほかに、ロボ化をせずに人間が行うべき仕事があります。その代表は申告書のチェック作業です。これら以外に残った業務を、弊社では順番にロボ化しています。

ロボ化のスタートはそれまでパートスタッフが行っていた業務など、難易度の低い業務から取り組んでいくと良いと思います。また、スポット業務よりも、毎月、毎日あるような定期的な業務の方が成果は出やすいようです。

RPAを導入することで新たに取り組み始めようという業務も生まれてきます。例えば、企業ホームページから新規の顧客リストを取得するような作業は、ロボットが得意な分野です。そうした視点で取り組んでみても面白いと思います。

弊事務所のスタッフからの反応も非常に良いです。あるスタッフは「ロボットが行う作業を、隣で

休憩しながら見ている」と話していました(笑)。

RPA導入のそのほかのメリットには、事務所のブランディングがあります。弊事務所では、採用サイトに事務作業をロボットが行っていることを前面に打ち出しています。これにより、入社後にやりがいがあって、付加価値の高い仕事に取り組めることを説明しています。

またお客様に対しても、ロボットが業務を行っているため、高品質で安価サービスを提供できると説明できます。スタッフの離職対策にも有効で、いったんRPAを使った仕事環境に慣れたスタッフは、二度とアナログな環境で仕事をしようとは思わないと思います。

ロボットが作業をして、人間がチェックをする。それにより優秀なスタッフを採用できるようになり、お客様サービスや付加価値業務に集中することができ、より良いサービスを提供できるようになる。RPAを活用することで、サービス面でも人材面でもメリットが生まれていきます。■

## サン共同税理士法人 (東京都港区、代表・朝倉歩氏)

### 「ロボ化」までの思考のプロセス

- 1 そもそも「必要な作業かどうか？」を検証
- 2 「既存のソフトやシステムの機能で、できる作業ではないか？」を検証
- 3 「人間が行うべき仕事ではないか？」を検証

難易度の低い業務  
(定期的に行っている業務)  
からRPAを導入

※ほかにロボットが得意な分野の業務で、新たに  
取り組み始められる業務はないかを検討する



サン共同税理士法人では、RPAを扱うことができるスタッフに対しては、自分用のPCのほかに、ロボット用のPCを用意する



サン共同税理士法人 (東京都港区)  
デロイトトーマツ税理士法人(シニアマネージャー)退職後、2016年よりサン共同税理士法人(東京都港区)の代表社員に就任。Web集客と自社開発による業務管理ソフトウェアやRPAを使ったIT戦略を強みとしている。また、会計事務所のM&Aに積極的に取り組み、開業後3年間で八王子、板橋、飯田橋の3拠点の会計事務所を承継している